

もし、明日、災害が起きたら。

地震や台風、集中豪雨など、遠野を何度も襲ってきた自然災害。もし、明日、また災害が起きたら、あなたはどうしますか？自分や家族、大切な人を守るため、私たちが取るべき行動とは。過去の災害を振り返りながら、明日への備えについて考えます。

過去の大災害から学ぶ

災害はいつでも発生するから分らない

この遠野にも大災害の歴史があります。昭和56年の「56災害」では、強力な台風が本市を直撃。土砂崩れや床上浸水など甚大な被害がありました。近年では、東日本大震災が挙げられます。沿岸被災地のような津波被害はありませんでしたが、建物や道路の崩壊などの被害があったこと、水道・電気などのインフラがストップし、不便な生活を強いられたことを決して忘れてはいけません。また、昨年8月には集中豪雨に見舞われ、洪水被害が発生した地域もあります。

東日本大震災

平成23年3月11日に発生。岩手、宮城、福島を中心に大きな爪痕を残した。市内では、家屋や公共施設の損壊など約32億円の被害が出た。水道や電気の断絶、ガソリン不足など、日常生活にも影響が及び、普段から備えることの重要性を学んだ。(写真/全壊した市役所本庁舎)



集中豪雨

8月9・10日豪雨被害

昨年の8月9・10日の記録的な大雨により、市内では床上浸水や道路への冠水、土砂災害など、多くの被害が出た。被害総額は約5,000万円。ゲリラ豪雨も含め、今後このような集中豪雨が全国各地で増加すると予測する専門家もいる。(写真/宮守町達曽部の湯屋地区で発生した土砂崩れ)



56災害

昭和56年8月23日に、本市を台風15号が直撃。市内各所で河川が氾濫し、床上浸水や土砂崩れなどの被害が発生した。被害総額は約106億に上った。(写真 上/下組町の早池峰バス本社付近で、洪水で2階に取り残された人を救助する消防隊員ら 右/床上浸水に見舞われた上郷小学校付近)

台風

※激甚災害とは…人々の生活に著しい影響を及ぼし、国が被災地域への財政援助や被災者への助成が特に必要だと指定する大きな災害。

加すると予想する専門家もいます。過去の災害から学んだことは、自然災害は、いつどこで発生するか、誰にも予測できないということ、そして、災害は人の力で止めることはできないということ。だからこそ私たちは、「備える」ことで被害を最小限に食い止める必要があるのです。自助と共助の力で72時間を生き延びる

出したという事実があります。大規模災害時は、より被害の大きい場所に救助の手が回るため、消防や警察、自衛隊などの「公助」が、あなたの元へすぐに届くとは限りません。また、発災から72時間(3日間)以上経過すると、救助者の生存率は極めて低くなるというデータもあります。私たちは、公助の手が届くまでの間、自分たちの身の安全を守るとともに、家族や地域の人の命を救う行動をとらなければなりません。私たちは、自分で自分を守る「自助」と、地域で助け合う「共助」の力を磨き、災害に備える必要があるのです。

防災の3つのキーワード

- ①自助…自分の手で自分と家族を守ること
②共助…近所や地域で助け合うこと
③公助…市や関係機関が市民を守ること

それぞれの立場で備えることが大切

私たちは、阪神・淡路大震災や東日本大震災など、過去の大災害から多くのことを学びました。その一つが、備えることの重要性です。災害時は、行き当たりばったりの行動では命を守れません。個人で、地域で、社会で、それぞれの立場でしっかりと備えることで



車を飲み込む洪水

雫石町では大災害に

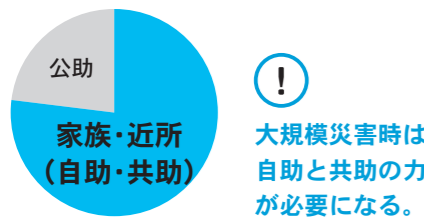
昨年8月に県内を襲った大雨被害。雫石町では記録的な集中豪雨に見舞われ、洪水や土砂崩れが多数発生。被害総額は約66億円に上り、*激甚災害に指定された。(写真提供/雫石町)

Data of natural disaster

阪神・淡路大震災のデータから学ぶ

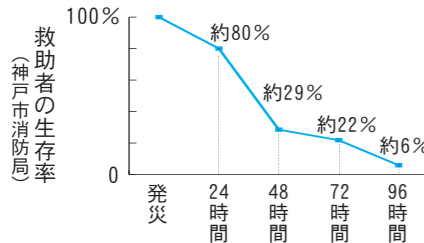
データ1 がれきから救助された人は、誰に救助されたのか

Table with 2 columns: Category, Count. 救助された人: 35,000人. 家族・近所が救出(自助・共助): 27,000人. 消防・警察・自衛隊が救助(公助): 8,000人



大規模災害時は自助と共助の力が必要になる。

データ2 命が助かった人は、いつまでに救助されたのか



発災から72時間経過すると、生存率は極めて低くなる。



Interview

市防災危機管理課 防災危機管理監 (元陸上自衛隊)

阿部和彦 さん

Kazuhiko Abe